躍動カフェ（北播磨地域） 議事要旨

１　概　要

(1)日　時:令和 6 年 5 月 24 日(金)13:50～16:00
(2)場　所:小野市うるおい交流館エクラ 1F 市民交流ホール(小野市中島町 72 番地)
(3)参加者:齋藤知事、北播磨地域(西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町)に在住・在学・在勤等しており、地域づくり、観光、伝統文化、農業、子育て、移住支援など各方面で活躍している方々　30 名
(4)テーマ:住み続けたい　暮らしやすい　人が集い輝く　北播磨
(5)内　容:知事挨拶
グループ別意見交換(A～E グループ)
グループ別意見発表(A～E グループ)
知事総括コメント

２　意見発表の内容

Ａ　農と食の魅力づくり

発表者：藤岡啓志郎（進行役）

現状と課題：

- 北播磨地域の農産物をどのように国内外へアプローチしていくのが良いか、例えば、県の特産品である山田錦を他府県とどのように差別化して販売していくか。
- 農作物は見た目だけでは価値や違いが分かりにくい。「兵庫県産の山田錦がいい」と伝えるためには、品評会や海外のコンクールでの評価のほか、たんぱく質含有量の成分検査結果など、良いものであるというエビデンスを知ってもらう必要がある。
- 兵庫県の育成品種であるひかり姫※(新品種の黒枝豆)を用いて、フィールドパビリオンのプログラムにしようとしている農家がいるが、いかに他府県や外国からお客さんを呼び込んで、ひかり姫がどういった品種であるかを見てもらい、収穫体験をしてもらえるか。そのためには、交通事業者との連携も欠かせない。
- 山田錦やひかり姫といった農作物に共通するものだが、有機農業や環境保全型農業といった栽培方法について、どのように差をつけ、売り出していくかが重要。
- 北播磨地域は自然豊かで風景がものすごく綺麗だが、不耕作地や耕作していない農地が多くあり、よさをアピールできない。

課題解決に向けて：

- フィールドパビリオンに取り組むことで、事業の横展開ができるようになるものと期待している。横展開ができれば、他の農作物を一緒に売り出すなど、より魅力ある PR につながるのではないか。例えば、農作物の収穫体験の時に播州織とコラボし、播州織の手ぬぐいを配るといったアイデアも。

- また、京阪神地域などの都市部に売り込むことによって、北播磨地域で採れた農作物の良さを知ってもらい、それをきっかけに、北播磨地域に来てもらったり観光をしてもらったりできれば。
- 新規就農者の育成なども、今後ますます重要になってくる。

※ひかり姫：兵庫県が育成したエダマメ専用の品種。兵庫県のブランド大豆である「丹波黒」と非常に似ており、丹波黒ブランドを守るため、県が定める栽培ルールを守る生産者のみ栽培が認められる。

Ｂ　誰もが働きやすい北播磨

発表者：足立美由希（進行役）

現状と課題：

- 子育て中のお母さんや共働きの家庭では、子どもの急なお迎えなど、急に対応しなければならないことがよくある。
- 遠いところから働きに来てもらえるように、直行便などがあれば通いやすい。
- 働きやすい環境づくりについて、会社や団体、自治体で取り組めることもあれば、自分たちの働くメンバー同士や、家庭内で取り組めることもある。

課題解決に向けて：

- 家族や子どもについて、職場の配慮があると、子どもの急なお迎えなどに対応しやすくなる。お母さんだけではなく、お父さんも対応していけるような社会になればいい。
- 働きやすい環境づくりについて、色々課題はあると思うが、例えば、従業員に綺麗な職場環境を提供することや、手当や教育制度などを充実させるといった仕組みを設けられるといい。
- 自治体によっては、北播磨地域に就職すると受けられる助成があり、県でも、企業と連携して奨学金返済を支援する事業があるが、もっとPRしてもらいたい。
- 働きやすさについては、色んな人たちがいる中で、それぞれ個々の課題があるが、私たち自身も１つ１つ向き合って、課題を解決していきたい。

Ｃ　移住・定住の促進

発表者：寺川敏博（進行役）

現状と課題：

- グループで課題として考えたのは主に 3 つ。大きく分ければ移住する側に対することと、受け入れ側に対することの2つ。
- 移住する側の1つ目の課題として、小学校から高校までの教育課程のところで、地元の企業を知らないまま県外に出ていってしまう）子どもが多いこと。
- 2つ目に、若年層の転入を増やしていく施策が足りていない。ファミリー層に向けた行政の施策は北播磨地域にもあるが、これからは、若年層に向けた取組が非常に大事になってくると考える。
- 3つ目に、自治会をはじめ、受け入れ側である地域団体のアップデートができていない。

課題解決に向けて：

- 1つ目の教育過程の部分については、小学校から高校まで間に、企業との接点をどんどん増やしていくべき。企業への訪問などを教育課程の中にしっかり取り入れていくことが大事。そのときに、受け入れの企業の負担が増えないよう、1社 2 社が手を上げるのではなく、大勢の企業が手を挙げ、ネットワークを作っていくことが大事。
- 2 つ目の若者の転入者を増やしていく施策については、自治体単位でも差別化、ブランディングを図る必要がある。そのブランディングに紐づいた形で、事業者がプランニングし、それぞれの特性を出しながら差別化できるように整備する必要がある。

  北播磨の中でも、Uターン就職など様々な理由で移住されてきた方がおられるが、何となくその地域に住んでいらっしゃる方がいる一方で、何かしたいから来られた方も多いので、北播磨の中でも、市町ごとで差別化をしつつ、連携していく中で、例えば、加東市に移住したいと思っていたけど、多可町に移住する方が目的が果たされる、といったように、移住者のニーズを踏まえながら、北播磨地域の市町が提携していく仕組みがあれば。
- 3 つ目の移住の受け入れ側のアップデートについて、行政が積極的に動いて、集落に入って取り組んでいくのはなかなか難しいし、集落の課題について、その集落の区長にアップデートしてもらうのも現実的に難しいので、行政と区長とをつなげるような中間支援組織によって、持続的に集落と一緒にアップデートできるような仕組みが必要。

D　万博フィールドパビリオンを通じた地域の活性化

発表者：藤本隆太（進行役）

現状と課題：

- 万博の開催まで1年を切っている中で、各プレイヤーが感じている課題は大きく 2 つ。
- 1 つ目が、自分たちのストーリー、ものづくりの背景を誰に伝えて、このまちまで来てもらうのか。
- 2 つ目は、北播磨地域の交通インフラについて。車であれば、大阪や神戸から 1 時間程で来られるような利便性はあるが、関係各所と連携して取り組む必要がある。

課題解決に向けて：

- 1つ目の課題について、ものづくりプログラムでは、その体験を通して何を伝えたいか、例えば、ルーツや体験、ものづくりの背景などを通して、どんな感動を伝えていきたいか。各プレイヤーのハートにあるものを、フィールドパビリオンを通して、しっかりその世界の方に向けて発信をしていく。

  そのフォローアップをしてもらいたい。各プレイヤーで行うだけではなく、コミュニティを形成することで課題解決ができそうな部分もあるので、残り 1 年の中で、地域のフィールドパビリオンがコミュニティとしてより強く強固に連携していく。また、事業者同士に加えて、行政とも連携しながらブラッシュアップしていくことが大切。これができれば、北播磨地域にはものすごく楽しいコンテンツがあり、可能性を秘めている。
- 2 つ目の交通面について、例えば、ツアーを組んで自分たちで送迎する取組もあるが、マンパワーの部分で課題があり、観光事業者との連携も必要。

  ビジネスとしてしっかりと一事業者として自立した経営をしながら、そこに魅力発信につなげ

ていくことが重要だが、各事業者がやるべきことを突き詰めていく中で、その地域や地域の皆さんに何かを還元していきたい。

- 北播磨地域に訪れてもらうに当たり、いかに長い時間滞在してもらえるか、関係各所が連携して考えていくことが重要。
- フィールドパビリオンの情報発信について、属性別に、例えば年代別や性別など、ターゲット層別に届けたい情報を発信していくといった仕掛けも、北播磨の魅力発信につながっていく可能性あるかもしれない。

Ｅ　北播磨らしい観光地域づくり

発表者：藤原弘三（進行役）

現状と課題：

- 北播磨地域は認知度が低い。もし自分が兵庫県以外に住んでいて、どこの県に行こうかと考えたときに、兵庫県北播磨は出てこないと思う。
- 県や北播磨県民局として、どういったものを目標や成果とするのか。
- 北播磨地域の魅力って何だろうと考えたときに、東条湖おもちゃ王国やゴルフ場、公園など、個別の魅力的なスポットはあるが、北播磨地域としては連携が取れていない。

課題解決に向けて：

- 例えば、人口増やすことが県の課題としてあるが、何人呼べば成功なのか、といった目標設定が必要。何か成果があったときに人は動く。私の会社の話だが、ある1つの部署が大きな成果を上げたと聞くと、他部署も盛んに動き出す。このように、成果が見えたときに、組織として全体で目的に向かっていけるのではないか。
- 兵庫県にはたくさんの魅力があるが、北播磨に特化して考えたときに、何か1つ飛び出すもの、例えば、酒米にフォーカスを当てて、酒米を PR するためにどうしていくのかというプロセスを決める。このEグループにも、デザイナーやテントを作る方、銀行に勤める方など、様々な業界のプレイヤーがいるので、個でできることに取り組みつつ、みんなで協力して、一つの大きな成果につなげられるような関係を構築したい。

３　知事総括コメント

- 各グループの皆さんからの発表を大変興味深く聞かせていただいた。
- Aグループの「農と食」では、お米のフィールドパビリオンプログラムや、有機農業など、それぞれの磨き上げをどうPRしていくか。他の自治体でも同様のことをやっている中で、どう差別化していくかということを、具体的に考えることは、とても大事なこと。

　コウノトリは、兵庫県で随一、全国でも唯一と言える資源。コウノトリは自然豊かな但馬地域で育まれているが、これは農業の世界にも生きてくると思っていて、コウノトリを育むような有機野菜といった農作物を作ること、それによって、「環境にやさしい」というブランディングができればと研究している。

- Bグループの「誰もが働きやすい」では、ワークライフバランスや家事のあり方について、具体的な意見をいただいた。兵庫型奨学金返済支援制度は、とても大事な制度なのでこれからもPRしていきたい。これはCグループの「移住・定住」にもつながる。
- 県と県内中小企業が連携し、2 対 1 の補助割合で、対象企業で働く従業員の奨学金返済支援を行っているが、中小企業の負担を市町に負担していただくという制度もある。例えば、その地域に住むことを補助対象条件にすれば、企業にとっては人材確保につながるし、学生（対象従業員）にとっては奨学金返済の負担軽減となり、企業にとっては負担がなくなる。かつ、市町としてはそこに住む若い人が増えるということで、四方良しの制度となる。実際、そういうふうにしたいという自治体も出てきているので、市町とも連携しながら取り組んでいく。
- Cグループの「移住・定住の促進」については、学生を含めた子どもたちに対して、もっと地元の企業のことを知ってもらえるよう取り組んでいくことが大事。そのため、トライやるウィークは大事なプロジェクトであり、県立大学の学生をはじめ、県内の学生に対しても、地元の企業のことを知ってもらえるよう働きかけていくことが大切。
- Dグループの「フィールドパビリオンを通じた地域の活性化」について、横のつながりが大事だと言われていたが、例えば、淡路地域では、フィールドパビリオンプレイヤー同士がコミュニティを作って、プログラムの1つである淡路の線香の商品開発などの取組も行っている。プレイヤー同士の横の連携や、発表にもあった属性別のターゲット設定など、県としてもしっかりと応援させていただきたい。
- 最後に、Eグループの「北播磨らしい観光地域づくり」について、何を成果にするかという話があった。県でも、色々な取組に対してKPI設定というものをしているが、分かりやすい成果目標、具体的な取組について、それぞれのプロジェクトにおいてどのように設定していくかが重要だと思っている。奨学金返済支援制度であれば、現時点で数百社程利用しているが、具体的には、1,000 人ぐらいの方がその制度を利用してくれるようになると、本当にいいと思う。横断歩道のプロジェクトでも、10,000 カ所の実施を進めているが、具体的に分かりやすい成果が出るものをどんどんやっていくことが大事だと思うので、今後も取り組んでいく。
- 改めて、今日は躍動カフェに参加いただき感謝申し上げる。皆さん、お忙しい中、お時間を割いていただいたことと思う。
- また、この場を設定していただいたスタッフの皆さん、それから地元の小野市にも御礼申し上げたい。
- 今後とも、県民ボトムアップ型県政をしっかり進めていきたい。